

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091000150		
法人名	株式会社 ワタナベ		
事業所名	グループホーム ゆふの庄		
所在地	福岡市中央区鳥飼1丁目5-10		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果確定日	令和3年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「高齢者が主体的に選択できる生活を創る」の理念のもと、母体である調剤薬局と協働を行い、また病院や歯科、リハビリ面など多職種とも連携し、お一人おひとりのイメージに合った介護を目指していきます。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年11月8日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆふの庄」は平成31年4月に開設され、1階に小規模多機能ホームが併設され、2ユニットからなる事業所である。コロナ禍の中、外出が思うようにできなかったが、日常的に近隣の樋井川近辺の散策や、敷地内の中庭の散歩をしている。お正月には車でドライブを予定しており、季節の移ろいを感じられるように取り組んでいる。日頃も訪問マッサージ、口腔ケアなど他職種からも意見をいただき、特に口腔ケアには力を入れている。既往歴、生活歴、習慣などを読み解いて一人ひとりの思いにそった介護を目指していく。以前は、自治会主催の「精霊流し」に管理者が参加したり、幼稚園、保育園との交流も盛んに行われていた。状況が落ち着いたら、今後も考えている。11月にはボランティアのサクソ奏者の訪問があり、楽しみにしている。今後も地域住民との関係を深め、地域福祉の中心として活躍が期待される事業所である。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼などで基本理念の唱和を行う。	企業理念、福祉事業部理念があり、事務所内に掲示している。接遇5原則「整理」「整頓」「清掃」「清潔」しつけがあり、2ユニットで行なう朝礼時に唱和している。管理者、職員はその理念を共有し、実践につなげている。来年春からは人事考課表にて社員の成長、課題などを一緒に考えて行こうと思っている。	来春からは人事考課表を導入する。個人面談も良い、理念に沿った個人目標などを立ててもらい、一緒に考えていくとの事。より深く理念を共有し、実践につなげていかれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域交流は行っているが日常的ではない。	自治会には入会している。自治会主催の「精霊流し」に管理者が参加したことがある。幼稚園、保育園の訪問もあり、ボランティアの訪問もあった。コロナ禍の中、交流は難しくなっているが、公民館だよりは館長さんが届けてくれる。11月にはサックス奏者の方がボランティアで訪問されることになっており、事業所全体で楽しみにしている。	今後、近隣の同業者との交流を持とうと思うとの事。自治会長、公民館館長、包括支援センターなどから情報などをもらってみたいだろうか。公民館だよりに事業所の取り組みなどの情報を載せてもらい、地域の方に認知症、介護の話などをされる機会を見つけてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と中々交流を持たず、コロナ禍もあり、難しい状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でヒヤリハットや事故報告などの事業所の報告を行い、意見など頂戴している。	令和2年2月まで運営推進会議を行った。コロナ禍の中、開催は難しかったが、令和3年7月に自治会長、公民館館長、包括支援センター職員、民生委員さんなどの出席により運営推進会議を行い、ヒヤリハット、事故報告、事業所の取り組みなどを報告を行い、意見などを頂いた。会議の案内状は管理者が届けた。	今後、案内状、議事録などを家族、自治会長、公民館長など、出席して下さる方々に送付されてみたいだろうか
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度に関して質問する程度。	医療行為はどこまでできるのか。コロナワクチンの件などを相談した。介護保険の申請書は送付している。事業所の実情、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束についての社内研修を行っている。	身体拘束防止委員会を三か月に1回行っている。センサーマットについて、身体拘束の基本的な考え方「スリーロック」、特にスピーチロックなどについて、グループワークを行い、身体拘束になり得る日常などについて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。床センサーの使用の同意書は家族にもらっている。	身体拘束廃止についての施設研修はセンサーマット、スリーロック(ドラッグ、フィジカル、スピーチ)などそれぞれにおいてグループワークを行い、対策、取り組み方など細かい部分まで話し合いを行っている。今後も職員全員で取り組んでいくことを期待している。

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修は行っており、身体的な虐待はないが、心理的虐待とともれるような言動がある。その職員には都度指導を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については当事業所にも該当者おられ、制度については研修計画の一つに位置付けている。	入居前から成年後見制度利用者が2名おり、弁護士さんが関わっている。制度利用の要望があった時には管理者、ケマネジャーが対応する。後見人制度、権利擁護の研修は、職員が持ち回りで担当し、行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、料金の改定時には文書にて説明を行い、不明点を尋ねられた場合は十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍において機会を設けていないが、利用者の体調などについて細やかに報告行っており、家族とのコミュニケーションはとれている。	コロナ禍の中、家族の訪問もままならないが、月1回の「ゆふの庄便り」にて、事業所内での生活の様子などを知らせている。電話、オンラインなどで利用者の体調などについて細やかに報告し、利用者、家族などの意見、要望などを聞き取っている。	より多く、利用者、家族などが意見、要望を表せるように意見箱を設置したり、「ゆふの症便り」内に一筆便のようなものを入れ、意見、要望を表せる機会を設けてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の効率化についてはフローを見直すなど定期的に行っている。	意見、提案はよく聞いてくれる。キッチンまわりの物、軽い持ちやすいコップの購入などもしてもらった。職員同士でも情報交換を行なっている。仕事の流れについても話し合いの時間が持っており、意見も言いやすく、聞いてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けており、各人の自己目標や適正な評価を行っている。現場からの意見を取り入れ、物品購入など環境改善に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集採用については制限はせず少しでも長く勤めて頂くよう努めている。	年齢は30歳代から70歳までと幅が広い。休憩も一時間あり休憩場所もある。初任者研修、実務者研修など事業所として研修を受けられる。人事評価制度もあり、自己研鑽に励んでいる。職員はそれぞれ得意な分野を発揮し、生き生きとして勤務している。食事の前には職員のわかりやすい、楽しい指導の下、嚙下体操をみんなで行っていた	

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「ユマニチュード」を全社で推進しており、全体研修などで講習会を行っている。	「ユマニチュード」を会社全体で推進している。全体研修などで講習会も行った。現在は各事業所で内部研修を行っており、介護する人とされる人の双方が寄り添うことの大切さ、優しさのケアに取り組み、尊厳を大切に、最後までその人らしく過ごせることを目指している。今後、夜勤専門の職員への、勉強の取り組み方を、考えようと思っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所に届く外部研修の推進を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流はないが、いずれは合同での運営推進会議を開催していきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にカンファレンスを行い、本人のご性格や行動把握、環境づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安などの聞き取りを行い、ご本人にとって最適な支援を行うよう説明する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に緊急時への対応のため、訪問診療をお願いしており、その他訪問歯科や訪問マッサージなどにおいては必要時に検討し導入している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には自立支援できるようなケアが望ましいが、「お世話」となっていることが多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、著しい体調不良者においては面会の緩和を行うなどし、家族の時間を多く作るようにしている。		

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出等はほぼしていない。	以前は友人の訪問があったり、家族と一緒に食事に行ったり、外泊をすることもあった。コロナ禍の中外出は思うようにできないが、事業所内で「はり絵」などの好きな事をしてもらったり、利用者同士でコミュニケーションを取れるように工夫をしたりしている。往復はがきを送られてくる家族への手紙、電話などへの支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置などを大事にし、コミュニケーションを利用者同士でとれるよう工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一旦サービスが終了した方においても再度入居希望があり待機されている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録に計画を記載しており、毎日評価をしている。普段の会話の中にある希望などは汲み取っているが実現は少ない。	入居時は自宅、病院、施設などを管理者、ケアマネジャーなどが訪問する。利用者、家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、不安な事、要望などを聞き取る。意思を伝える事が難しい利用者には表情、仕草などから思いをくみ取りまた言葉かけにより思いを導くようにしている。施設、病院などから情報をもらうこともある。アセスメントは事業所独自の様式である。現在職員は担当を持っていないが、今後利用者1~2名を担当してもらおうと思っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時などご家族と本人の生活歴をしっかりと聞き取りを行い、導入する直前までの介護サービスなどの歴を把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定例会議などにおいて心身の状態把握を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画期間終了近くにカンファレンスを開き、直近の本人の状況を踏まえケア方針を考え計画へと生かしている。	ケアプランに紐付き、日々のケアの実践、結果、気付きを個別記録に記入している。毎月のカンファレンスに於いて職員全員で情報を共有し、話し合い変化を見逃さないようにモニタリングを行う。モニタリングシートは独自の物を使用。担当者会議では利用者、家族の意向を聞き取り、医師、歯科医師などからの意見も反映させ、現状に即した介護計画をチームで作成している。	

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは個人情報に注意し、ラインワークスにて共有、またモニタリングを通し、計画作成担当者が計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ、訪問マッサージや訪問歯科などの導入は進めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の要望があれば将棋ボランティアなど導入できるようボランティアの把握には努めているが現段階では導入はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の助言あればご家族に報告し、病院受診の必要性があればご家族に協力を求め介護タクシーの手配など行い、難しければこちらで対応している。	かかりつけ医、提携医の訪問があり、提携医は24時間対応が可能である。眼科、歯科も訪問があり必要な方は利用ができる。週2回訪問マッサージの訪問もある。看護師が常勤をしております日常のかかわりの中で相談ができる。他科受診は家族が行けない時は事業所で対応する。今月は歯科医師が事業所にて職員に研修をしてくれる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間ラインなどで個人情報漏洩には十分注意しながら情報の共有は行っており、適切な看護を受けられるよう準備は行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には直近状況やADLなどの報告を医療機関に報告し、円滑に治療を行って頂けるよう心掛けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平素の状況を踏まえ、終末期が近づいているとあれば主治医に報告し家族との話し合いの場を設けている。現在事業所が持っている介護力、看護力を説明しなるべく看取りに向けている。	入居時に看取りの説明を行い、指針を渡している。同意書は必要になった時に用意する。食事が取れず、看取りの方向になっていた方が、入れ歯を補正し口が開くようになり、食べ物、水分が取れ、元気になった方がいらした。事業者が持っている介護力、看護力を説明しながら、今後も看取りに力をいれて行くようにしている。	看取りの研修について、看護師さんなどにも相談してみたらどうだろうか。

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議などで定期的に事故発生時などの流れを確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練はなるべく参加の初めての職員に受けてもらっている。地域の防災訓練などにも参加していきたい。	年2回、火災、地震、水害などの防災訓練を行った。建物の管理会社の方が見え通報模擬訓練で消防署への通報の方法を行った。今後、地域への防災訓練にも参加しようと思っている。	今後地域への防災訓練にも参加しようと思われているとの事。自治会長、公民館館長、包括などから情報をもらい、検討されてみてはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の対応に管理者が随時注意しているが、介護についての話を本人近くで行ったりしている。	利用者との会話の中で「外食したい」「家に帰りたい」などの思いを聞く事がある。コロナ禍の中、思いを実現することが難しいこともあり、ブログにて画像、文章を送信し、家族からも返事をいただいている。職員間ではラインワークスを使用し情報を共有している。接遇マナー、ユマニチュードの研修などを職員が担当を決め行っている。言葉かけ、対応などについては管理者が随時注意をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中で思いなどは聞くことがあるが、実現に向けては進まない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の動きに合わせてもらっていることが多い。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身でされる方以外の方へのいわゆるおしゃれの支援はイベント時以外は行っていない。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の後片付けなど衛生面に注意し一緒にやっている。	副食は外部に頼っており、行事食もある。ご飯は事業所で炊いている。刻み食、ミキサー食、アレルギーの方にも対応している。誕生日にはケーキを購入し色紙、プレゼントなどを用意し、みんなでお祝いをする。食事の後片付けなど衛生面に注意し、一緒にやっている。	

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量の確認を行い、減少傾向などあれば主治医に相談したり、本人が好むであろう味の栄養補助食を購入するなどしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、なるべく自身で出来る様に働きかけている。なるべく訪問歯科に入っていたり、専門職からの意見を参考にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンはチェック表を利用し、尿量、便状態などが通常とは違えば、看護師と連携、場合によれば主治医の指示を仰いでいる。	排泄チェック表にて声かけのタイミングなどを考え、パッド交換の回数が減った。昼間は、落ち着かない様子が見えた時は声かけすることで、失禁が改善されてきた。排便促進には飲むヨーグルト、お腹をさすなどの介助を行っている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は毎日行い、チェック表を用い、何日排便がないかなどの確認は行っている。排便なしが続けば、水分量の確認、緩下剤の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中での入浴施行だが気分が乗らない、血圧高い低いなどあれば午後に行っている。	月曜日から土曜日まで一日3名、午前中に入浴してもらいが、気分が乗らない時、血圧などにより午後に入浴してもらい。個浴で、シャンプー、ボディソープなど好みの物を使用されることもできる。皮膚観察を行い、異常のある時は看護師の指示を仰ぐ。入浴の時間は大事なコミュニケーションの場としてとらえている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ずっとリビングにいたり、ずっと居室に居たりなどは無いようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報ファイルを作成しており、その方がいつどのくらいの量を飲んでいるかなどは把握できている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いについてはなるべくお願いしているが、偏っている。		

R3.11自己・外部評価表(グループホームゆふの庄)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において行っていない。	コロナ禍の中外出は思うように行えないが、近隣を散策したり、樋井川近辺に行ったり、事業所の中庭を散歩したりしている。お正月には小規模多機能の車を借りてドライブに行く予定を立てている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の授受、盗った盗られたなどが起らないよう極力大きなお金は持ってきていていない。お買い物に行きたいとあれば、ご家族に了承をもらい立替にて行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	往復はがきを送られるご家族や電話を頂ける家族にはつながりを持っているが、こちらから積極的には行っていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間内に写真掲示や工作などで作ったものを飾り付け行っている。	事務所及びキッチンからリビング全体を見る事ができる。リハビリのための平行棒が置かれ、歩行練習ができる。共有空間には写真掲示や利用者、職員と一緒に作製した季節の工作物を飾り付けている。近隣からは、こどもたちのかわいい声がきこえてくる時もある。明るい日差しがたつぷりと差し込み、ゆっくりとした日常を過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファがあり、一人でテレビを楽しまれたり、ソファに同席した方と語り合われることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな花などをご家族に準備してもらうなど行っているが、人によって温度差があり、全員ではない。	使い慣れた好みの鏡台、いすなどを置かれている。家族の写真に囲まれ、又仏壇などを置かれ、穏やかな時間を過ごしている。花の好きな方は、お部屋に花を飾り、色どりを添えている。それぞれ居室は、ゆっくりと過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯ものたたみ、取り込み、干し、食器洗いなど可能な限り家事をして頂いている。		